CASBEE®さいたま2016年版 評価結果

■使用評価マニュアル：CASBEEさいたま2016年版　■使用評価ソフト：CASBEEさいたま2016ver.2.0

1-1 建物概要

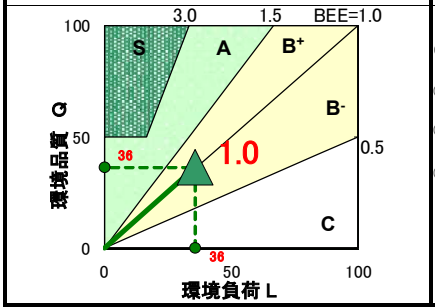
建物名称	（仮称）北浦和Ⅱ　新築工事	階数	地上7F
建設地	埼玉県さいたま市中央区新中里1-656-4,656-8,660-5,660-7,661-3	構造	RC造
用途地域	第一種中高層住居専用地域、指定な	平均居住人員	105 人
地域区分	6地域	年間使用時間	8,760 時間/年（想定値）
建物用途	集合住宅,	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2027年3月　予定	評価の実施日	2025年9月19日
敷地面積	1,864 ㎡	作成者	
建築面積	648 ㎡	確認日	
延床面積	3,274 ㎡	確認者	

1-2 外観

2-1 建築物の環境効率（BEEランク&チャート）

BEE =1.0

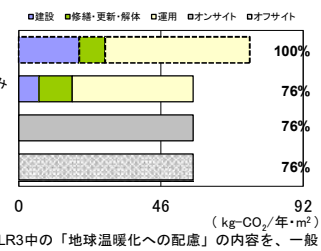
S: ★★★★★ A: ★★★★ B+: ★★★ B-: ★★ C: ★



2-2 ライフサイクルCO2(温暖化影響チャート)

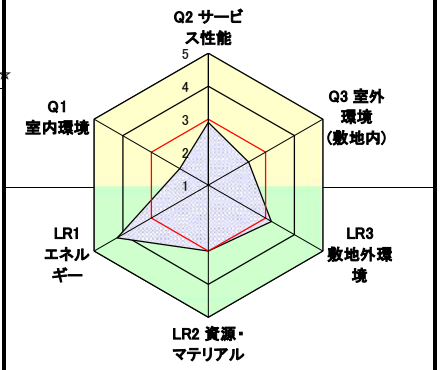
30%: ☆☆☆☆☆ 60%: ☆☆☆☆ 80%: ☆☆☆ 100%: ☆☆ 100%超: ★

標準計算



このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物（参照値）と比べたライフサイクルCO2 排出量の目安で示したものです

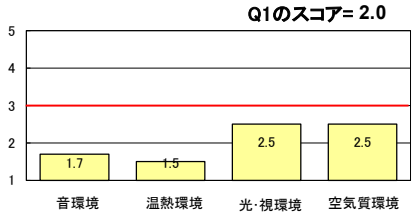
2-3 大項目の評価（レーダーチャート）



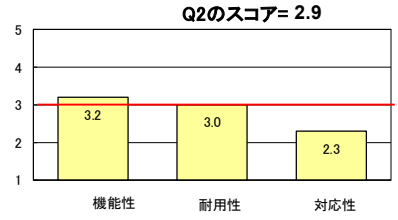
2-4 中項目の評価（バーチャート）

Q 環境品質　　Q のスコア= 2.4

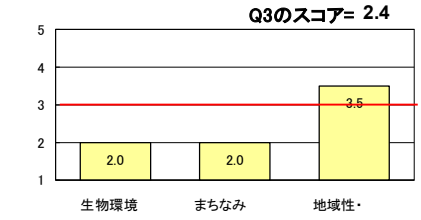
Q1 室内環境



Q2 サービス性能

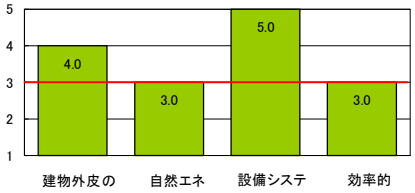


Q3 室外環境（敷地内）

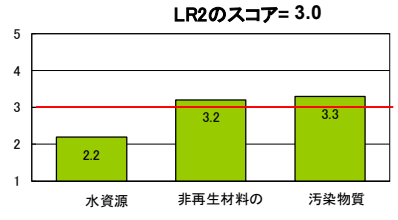


LR 環境負荷低減性　　LR のスコア= 3.5

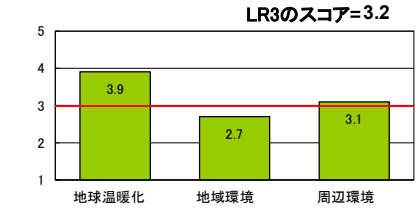
LR1 エネルギー



LR2 資源・マテリアル



LR3 敷地外環境



3 設計上の配慮事項

総合

LED等の高効率機器を採用し、省エネ基準を達成する建築物とした。

その他

特になし

Q1 室内環境

遮音性能に優れたサッシ、玄関ドアとすることで、静かな室内環境となるよう計画した。

Q2 サービス性能

快適な速度のインターネットが利用できる計画とした。

Q3 室外環境（敷地内）

緑化に富んだ計画とした。

LR1 エネルギー

BEI=0.79

LR2 資源・マテリアル

リサイクルに配慮し、分別が容易な計画とした。

LR3 敷地外環境

省エネ性の高い建築物とすることで、建物運用時のCO2発生量を低く抑えた。

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency（建築環境総合性能評価システム）
■Q: Quality（建築物の環境品質）、L: Load（建築物の環境負荷）、LR: Load Reduction（建築物の環境負荷低減性）、BEE: Built Environment Efficiency（建築物の環境効率）
■「ライフサイクルCO2」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
■評価対象のライフサイクルCO2排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

CASBEEさいたま2016年版
(仮称)北浦和Ⅱ　新築工事

■使用評価マニュアル：CASBEEさいたま2016年版
欄に数値またはコメントを記入　■評価ソフト：CASBEEさいたま2016ver.2.0

スコアシート　　実施設計段階

配慮項目			環境配慮設計の概要記入欄	評価点	重み係数	評価点	重み係数	全体
Q 建築物の環境品質								**2.4**
Q1 室内環境					**0.40**		-	**2.0**
1 音環境				**3.0**	0.15	**1.6**	1.00	**1.7**
1.1 室内騒音レベル				**1.0**	0.50	**1.0**	0.50	
1.2 遮音				**5.0**	0.50	**2.2**	0.50	
	1	開口部遮音性能	(住戸部)T-2等級(共用部)T-2等級	5.0	1.00	5.0	0.30	
	2	界壁遮音性能		-	-	1.0	0.30	
	3	界床遮音性能(軽量衝撃源)		-	-	1.0	0.20	
	4	界床遮音性能(重量衝撃源)		-	-	1.0	0.20	
1.3 吸音				-	-	-	-	
2 温熱環境				**1.6**	0.35	**1.5**	1.00	**1.5**
2.1 室温制御				**1.0**	0.50	**2.1**	0.50	
	1	室温	(共有部)管理室AC-1設置(住戸部)床暖房温水マット	1.0	0.63	1.0	0.63	
	2	外皮性能	(住戸部)省エネ基準適合	1.0	0.38	4.0	0.38	
	3	ゾーン別制御性		-	-	-	-	
2.2 湿度制御			(住戸部)床暖房温水マット	**1.0**	0.20	**1.0**	0.20	
2.3 空調方式			(共有部)管理室AC-1設置(住戸部)床暖房温水マット	3.0	0.30	1.0	0.30	
3 光・視環境				**2.5**	0.25	**2.5**	1.00	**2.5**
3.1 昼光利用				**3.0**	0.43	**2.0**	0.50	
	1	昼光率	(共用部)採光できる開口なし	-	-	1.0	0.50	
	2	方位別開口	最も数の多いタイプの間取りが複数あるため、中間のレベル3を採用	-	-	3.0	0.30	
	3	昼光利用設備		3.0	1.00	3.0	0.20	
3.2 グレア対策				-	-	**3.0**	0.50	
	1	昼光制御	(共用部)採光できる開口なし(住戸部)カーテンボックス・カーテンレー	-	-	**3.0**	1.00	
3.3 照度			(住戸部)照明機器が居住者設置による	**1.0**	0.21	-	-	
3.4 照明制御			(住戸部)照明機器が居住者設置による	**3.0**	0.36	-	-	
4 空気質環境				**3.0**	0.25	**2.5**	1.00	**2.5**
4.1 発生源対策				**3.0**	0.60	**3.0**	0.63	
	1	化学汚染物質		3.0	1.00	3.0	1.00	
4.2 換気				**3.0**	0.40	**1.6**	0.38	
	1	換気量		3.0	0.50	3.0	0.33	
	2	自然換気性能		-	-	1.0	0.33	
	3	取り入れ外気への配慮		3.0	0.50	1.0	0.33	
4.3 運用管理				-	-	-	-	
	1	CO_2の監視		-	-	-	-	
	2	喫煙の制御		-	-	-	-	
Q2 サービス性能				—	**0.30**	-	-	**2.9**
1 機能性				**2.4**	0.40	**3.4**	1.00	**3.2**
1.1 機能性・使いやすさ				**3.0**	0.40	**5.0**	0.60	
	1	広さ・収納性		-	-	-	-	
	2	高度情報通信設備対応	ギガビットイーサネットの規格を満足することを最低条件とする	-	-	5.0	1.00	
	3	バリアフリー計画		3.0	1.00	-	-	
1.2 心理性・快適性				**1.0**	0.30	**1.0**	0.40	
	1	広さ感・景観	(住戸部)居室の天井高さ_最小2.150m(キッチン)	-	-	1.0	0.50	
	2	リフレッシュスペース		-	-	-	-	
	3	内装計画		1.0	1.00	1.0	0.50	
1.3 維持管理				**3.0**	0.30	-	-	
	1	維持管理に配慮した設計		3.0	0.50	-	-	
	2	維持管理用機能の確保		3.0	0.50	-	-	
2 耐用性・信頼性				**3.0**	0.30	-	-	**3.0**
2.1 耐震・免震・制震・制振				**3.0**	0.50	-	-	
	1	耐震性(建物のこわれにくさ)		3.0	0.80	-	-	
	2	免震・制震・制振性能		3.0	0.20	-	-	
2.2 部品・部材の耐用年数				**3.5**	0.30	-	-	
	1	躯体材料の耐用年数	劣化対策等級(構造躯体等) 3	5.0	0.20	-	-	
	2	外壁仕上げ材の補修必要間隔	吹付タイル	2.0	0.20	-	-	
	3	主要内装仕上げ材の更新必要間隔	ﾋﾞﾆｰﾙｸﾛｽ(準不燃)貼	4.0	0.10	-	-	
	4	空調換気ダクトの更新必要間隔		3.0	0.10	-	-	
	5	空調・給排水配管の更新必要間隔	主要用途上位3種全てにB種以上を採用	5.0	0.20	-	-	
	6	主要設備機器の更新必要間隔	給湯暖房熱源機	2.0	0.20	-	-	
2.4 信頼性				**2.6**	0.20	-	-	
	1	空調・換気設備	中央式空調換気設備を持たない	3.0	0.20	-	-	
	2	給排水・衛生設備		1.0	0.20	-	-	
	3	電気設備		3.0	0.20	-	-	
	4	機械・配管支持方法	CATV	3.0	0.20	-	-	
	5	通信・情報設備		3.0	0.20	-	-	

3 対応性・更新性			2.8	0.30	2.3	1.00	2.3
3.1 空間のゆとり			-	-	1.6	0.50	
	1	階高のゆとり	-	-	2.0	0.60	
	2	空間の形状・自由さ	-	-	1.0	0.40	
3.2 荷重のゆとり		基準階高2.760m	-	-	3.0	0.50	
3.3 設備の更新性			2.8	1.00	-	-	
	1	空調配管の更新性	3.0	0.20	-	-	
	2	給排水管の更新性	2.0	0.20	-	-	
	3	電気配線の更新性	3.0	0.10	-	-	
	4	通信配線の更新性	3.0	0.10	-	-	
	5	設備機器の更新性	3.0	0.20	-	-	
	6	バックアップスペースの確保	3.0	0.20	-	-	
Q3 室外環境（敷地内）			–	0.30	-	-	2.4
1 生物環境の保全と創出			2.0	0.30	-	-	2.0
2 まちなみ・景観への配慮		2)道路に面して中高木を配置	2.0	0.40	-	-	2.0
3 地域性・アメニティへの配慮			3.5	0.30	-	-	3.5
3.1 地域性への配慮、快適性の向上		5)住戸に面してﾊﾞﾙｺﾆｰを計画6)敷地周辺に見通しの良いﾌｪﾝｽを設	3.0	0.50	-	-	
3.2 敷地内温熱環境の向上		V 1)2)住で2ポイント	4.0	0.50	-	-	
LR 建築物の環境負荷低減性				-		-	3.5
LR1 エネルギー			–	0.40	-	-	4.2
1 建物外皮の熱負荷抑制		（住戸部）省エネ基準適合	4.0	0.20	-	-	4.0
2 自然エネルギー利用			3.0	0.10	-	-	3.0
3 設備システムの高効率化		[BEI][BEIm] = 0.79	5.0	0.50	-	-	5.0
4 効率的運用			3.0	0.20	-	-	3.0
集合住宅以外の評価			-	-	-	-	
	4.1	モニタリング	-	-	-	-	
	4.2	運用管理体制	-	-	-	-	
集合住宅の評価			3.0	1.00	-	-	
	4.1	モニタリング	3.0	0.50	-	-	
	4.2	運用管理体制	3.0	0.50	-	-	
LR2 資源・マテリアル			–	0.30	-	-	3.0
1 水資源保護			2.2	0.20	-	-	2.2
1.1 節水			1.0	0.40	-	-	
1.2 雨水利用・雑排水等の利用			3.0	0.60	-	-	
	1	雨水利用システム導入の有無	3.0	0.70	-	-	
	2	雑排水等利用システム導入の有無	3.0	0.30	-	-	
2 非再生性資源の使用量削減			3.2	0.60	-	-	3.2
2.1 材料使用量の削減		F.T.Pile工法採用	3.0	0.10	-	-	
2.2 既存建築躯体等の継続使用			3.0	0.20	-	-	
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用		ー	3.0	0.20	-	-	
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用		押出法ポリスチレンフォーム保温板	3.0	0.20	-	-	
2.5 持続可能な森林から産出された木材		木製建具、木製巾木	3.0	0.10	-	-	
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み		躯体+LGS+ﾋﾞﾆｰﾙｸﾛｽ(準不燃)貼	4.0	0.20	-	-	
3 汚染物質含有材料の使用回避			3.3	0.20	-	-	3.3
3.1 有害物質を含まない材料の使用			3.0	0.30	-	-	
3.2 フロン・ハロンの回避			3.5	0.70	-	-	
	1	消火剤	-	-	-	-	
	2	発泡剤（断熱材等）	4.0	0.50	-	-	
	3	冷媒	3.0	0.50	-	-	
LR3 敷地外環境			–	0.30	-	-	3.2
1 地球温暖化への配慮		LCCO2=76%	3.9	0.33	-	-	3.9
2 地域環境への配慮			2.7	0.33	-	-	2.7
2.1 大気汚染防止		給湯暖房熱源機	3.0	0.25	-	-	
2.2 温熱環境悪化の改善			3.0	0.50	-	-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制			2.0	0.25	-	-	
	1	雨水排水負荷低減	3.0	0.25	-	-	
	2	汚水処理負荷抑制	3.0	0.25	-	-	
	3	交通負荷抑制	1.0	0.25	-	-	
	4	廃棄物処理負荷抑制	1.0	0.25	-	-	
3 周辺環境への配慮			3.1	0.33	-	-	3.1
3.1 騒音・振動・悪臭の防止			3.0	0.40	-	-	
	1	騒音	3.0	1.00	-	-	
	2	振動	-	-	-	-	
	3	悪臭	-	-	-	-	
3.2 風害、砂塵、日照阻害の抑制		規制対象外建築物 規制対象外建築物	3.0	0.40	-	-	
	1	風害の抑制	3.0	0.70	-	-	
	2	砂塵の抑制	-	-	-		
	3	日照阻害の抑制	3.0	0.30	-	-	
3.3 光害の抑制			3.7	0.20	-	-	
	1	屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策	4.0	0.70	-	-	
	2	昼光の建物外壁による反射光（グレア）への対策	3.0	0.30	-	-	